



# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL67 平成25年4月

## ビッグバン真誠会

真誠会は半年後の9月に開設25周年を迎えます。4月1日には、新入職員25人を迎えて入社式を行いました。

今年の新しいスタッフの中でも、特筆すべきは元鳥取大学医学部附属病院 病院長、前山陰労災病院 病院長 石部裕一先生を、医療法人真誠会 理事、真誠会セントラルクリニック 院長代理として招聘したことです。石部先生は過去二つの病院の病院長としてその改革に辣腕を振るった先生であることは周知のことであり、今後真誠会の25年を迎えてからの新しい時代に新たな改革、進歩をもたらすと大きく期待しています。

一方、真誠会全体としては開設25周年の記念事業のように、今年1月から改築、増築、新築が目白押しです。

- 1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所事務室改修工事(平成25年3月完成)
- 2) 米子ホスピタウン増築(院長代理室、スタッフ休憩室)(平成25年4月完成)
- 3) 和田・複合型サービス事業所新築(平成25年3月完成)
- 4) グループホーム「椿庵」、「桜庵」新築(工期 平成25年4月～9月末)
- 5) サービス付き高齢者向け住宅「真誠会セントラルレジデンス」新築(工期 平成25年2月～平成25年9月)

これらの各種工事は、本年10月頃に全て完了します。真誠会は過去25年間、常に新しい事業に伴って新しい建築をしてきました。一度に2箇所の仕事も珍しいことではありませんでしたが、今回は一度に4箇所が同時に進むという真誠会の歴史の中でも新しい出来事といつてよいと思います。

また、真誠会は平成24年度厚生労働省の在宅医療連携拠点で行った事業の最終報告を、平成25年4月に厚生労働省に送りますが、今後も継続して米子市、鳥取県西部医師会と協力して在宅医療の推進に貢献して行きたいと思っています。

平成25年度は真誠会の25周年記念のビッグバンであり、そして次の50周年に向けてのビッグバンであり、真誠会が広く鳥取県西部で貢献するビッグバンになる年にしたいと思っています。



社会福祉法人 真誠会  
医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢

## 医療法人真誠会からのお知らせ 「就任のご挨拶」



医療法人真誠会理事  
真誠会セントラルクリニック  
院長代理  
地域医療統括  
石部 裕一

### 就任のご挨拶

皆さんはじめまして、4月1日より医療法人 真誠会理事、真誠会セントラルクリニック院長代理に就任いたしました石部裕一です。どうかよろしくお願いいたします。

私はこれまで35年間、麻酔科医として手術の麻酔、ペインクリニック、集中治療（ICU）の臨床経験を経た後、鳥取大学病院と山陰労災病院で約10年間病院の管理運営に携わってきました。そのため、この度の就任に当たっては、分野が異なる真誠会でどのようにお役に立てるか不安がありましたが、真誠会の設立理念に賛同し、小田貢理事長の「一緒に勉強して社会貢献しましょう」という力強い言葉に後押しされて、医療・福祉・介護の世界に挑戦する決意を致しました。

小田理事長がこれまで築き上げられたホスピタウンは、診療所群による総合医療機能という初期の理想から、セントラルクリニックを核とした医療から介護・福祉・看取りにいたるまでのシームレスな多機能サービスへと新たな展開を見せようとしています。これはまさに今、驚異的なスピードで進む高齢化社会において最も求められるモデル事業となるでしょう。

私は、これまでに培った経験を生かし、真誠会がこのような事業を確実に実行できる強靱な組織づくりに貢献するとともに、一医師として、諸先輩医師に見習い新たな知識と技術を修得し、地域医療・在宅医療において求められる医療が提供できるよう研鑽して参ります。

小田理事長をはじめとして多くのスタッフの方とは長いお付き合いがあり知己の間柄ですので、一心同体となって同じ目標に向かってまい進できることを楽しみにしております。

おわりに、皆様方の暖かいご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。



医療法人・社会福祉法人  
真誠会 理事長  
真誠会セントラルクリニック  
院長 小田 貢

### 歓迎のご挨拶

このたび、元鳥取大学医学部附属病院院長、前山陰労災病院病院長の石部裕一先生を医療法人真誠会理事、真誠会セントラルクリニック院長代理、地域医療統括にお迎えすることが出来ました。

石部先生は鳥取大学医学部附属病院院長、山陰労災病院院長時代を通して両病院をダイナミックに改革された、非常に高い見識と手腕をお持ちの先生です。

そのような実績と力量をお持ちの石部先生には、単に真誠会のためではなく鳥取県西部の地域医療の発展に手腕を発揮していただけるものと期待しております。

真誠会は本年9月に25周年を迎えますが、その大きな区切りの年にこのような立派な先生をお迎えし、真誠会の更なる発展が期待できると確信しております。

個人的にも尊敬している石部先生と一緒に働けることをこの上ない喜びと感じております。皆様方のご支援、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。



## 平成 25 年度 新入職員入社式

桜の花が満開となった4月1日、医療法人・社会福祉法人 真誠会の新入職員入社式が米子ホスピタウンで行われ、25人の新入職員が社会人としての自覚と決意を新たにしました。

入社式では、新入職員は医療法人・社会福祉法人 真誠会の小田眞理事長と4月にセントラルクリニック副院長に就任された石部裕一理事などの激励のあいさつを受けたあと、真誠会グループ各事業所の施設長などが紹介されました。

新入職員を代表して永海ちづるさんに小田理事長から辞令が交付され、永海さんが「真誠会の一員に加わらせていただき、何よりの喜びと誇りとするものです。質の高いサービスを提供するため、能力を高め、責任を持ち、困難に立ち向かい、常にチャレンジしていく精神を自らに課していきたい。一日も早く必要とされる存在になりたい」と力強く決意表明しました。

新入職員は4月4日までの4日間、真誠会の理念や各事業所の機能、看護・介護の基本技術、認知症ケアなどを学び、社会人としてのスタートを切りました。



### 小田理事長の入社式挨拶

真誠会は今年9月に創立25周年を迎え、真誠会そして新入職員の皆さんにとっても記念の年となると思います。真誠会では昨年度から複合施設やグループホーム、そして今年秋に完成するサービス付き高齢者向け住宅・セントラルレジデンスの建設に着手し、職員の数も現在の450人から約500人に増える見通しで、今年は真誠会の「ビッグバン」の年となります。

25人の新入職員を迎えて大変うれしく、また佐藤暢先生に続いて石部裕一先生と鳥取大学医学部麻酔科教授を務められたお二人をお迎えて、誇りに思います。

医療・福祉の仕事は人様を扱うことです。福祉の基本は、困っている人があれば自ら手をさしのべること。目に見えませんが困っているだろうと推察して、的確に人に手をさしのべることが、本当の福祉です。福祉の心は格好ではなく、心の糧、自らが幸せになることと自覚してほしいです。

本当の苦しみは、自分自身が苦しんで分かるものです。仕事を通して相手の方の苦しみを知り、思いやりのあるやさしい言葉が掛けられる医療・福祉のスタッフとなってほしいです。

皆さんは最高の職業を選ばれたと思います。私たちは全力で皆さんを教育していきます。



### オープニング セレモニー

## 米子ホスピタウン増築 院長代理室 スタッフ休憩室

4月11日(木)に、以前より工事中だった米子ホスピタウン増築工事の完成式を行いました。

介護保険施設ゆうとぴあは、弓浜ゆうとぴあに比べ、スタッフが休むスペースが少なかったため、ゆうとぴあの後ろに増築して休憩室(スタッフラウンジ)を作りました。

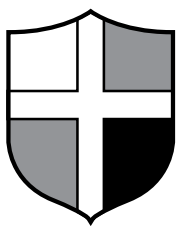
トイレも改修し、とても広く綺麗なトイレに仕上がりました。

また同時に、石部理事、院長代理の部屋を作りました。スタッフの休憩室と隣接しているので、業務の相談など、コミュニケーションが図れるよう設計にも工夫がなされています。



お洒落なカフェのような休憩室





## 真誠会セントラル レジデンス工事開始！ 豊かな空間 豊かな人生

## 入居者様 募集

社会福祉法人真誠会が運営する、サービス付き高齢者向け住宅「真誠会セントラルレジデンス」の工事が始まりました。

平成 25 年 1 月 26 日（土）に地鎮祭を執り行い、翌週より工事が始まりました。

それに伴い、入居者の募集を開始し、3 月 31 日に第 1 回目の広告を出しました。近年サービス付き高齢者向け住宅は多数建設されていますが比較的価格帯の多いようです。

真誠会のセントラルレジデンスの特徴は、おしゃれな住まいで、ワンランク上の質感とサービスを提供し、安心・安全のやすらぎを真誠会がサポートいたします。

同年 9 月中旬に完成予定で、10 月中旬より入居開始を予定しています。6 階建てで、全 58 部屋です。

施設の場所は、国道 431 沿いの「けやき通り橋」の近くに位置し、様々なレストラン、大型衣料品店、ドラッグストア、コンビニエンスストア、本屋等がありますので、けやき通りを気持ちよく散歩しながらショッピングを楽しむことができます。

また、生活していく上で、介護が必要になられても、真誠会セントラルクリニックを中心に、真誠会グループが運営する様々な介護保険サービス施設が、皆様の生活をご支援させていただきます。

赤い屋根の真誠会セントラルレジデンスで、「おしゃれ」で「新しい生活を」・・・



# 真誠会セントラルレジデンスでの生活をご自分の人生へのご褒美に ご両親様への感謝のプレゼントに

## 1. 豊かで快適な空間

真誠会セントラルレジデンスは、アパート、マンションの部屋の提供とは異なり、ビル全体が夢とロマンに満ちた新しい豊かな空間です。ロビーには、イタリア輸入のソファや調度品があり、ロマンチックな気分で会話が盛り上がります。周囲には高層建築がありませんので、各部屋からの眺めがよく、上層階からは大山を望むことができます。



イメージ

## 2. 健康な方から、介護の必要な方まで、安心な生活

真誠会セントラルレジデンスにお住まいの方は一人での生活でも、病気を抱えている方でも、真誠会セントラルクリニックをはじめ、真誠会の医療、福祉サービス、近隣の医療機関、かかりつけ医の総合的なネットワークで見守られていますので安心して生活ができます。オプションでさらに綿密な見守りネットワークもあります。

## 3. さらなる健康増進のために、いつまでも元気であるために

真誠会セントラルレジデンスと同じ敷地内に、健康クラブ、フィットネス施設があります。年齢、体力に応じた健康増進活動を継続できます。



部屋タイプ(一例)

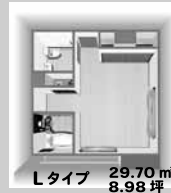
このほか11タイプで用意しております。詳しくはお問い合わせください。



Hタイプ 21.60㎡ 6.53坪



Aタイプ 23.80㎡ 7.20坪



Lタイプ 29.70㎡ 8.98坪



一緒に  
どうかな

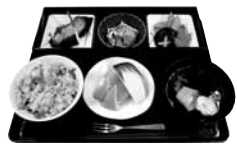
そうね  
楽しそうね

## 4. いつでも気軽に生活相談、健康相談

同じ敷地内に包括ケアサービス、ケアプランセンターがあり、生活援助、介護保険の利用など生活に関する相談にいつでも対応できます。医療に関するご相談にも応じることが出来ます。

## 5. シャンデリアがある廊下を歩いて シャンデリアのあるレストランへ

セントラルレジデンスの廊下、レストランはシャンデリアでおしゃれ感を満喫していただけます。ご家族、お友達とおしゃれなレストランでおしゃれな時間を！



イメージ

## 6. けやき通りの散策はいかがでしょうか

真誠会セントラルレジデンスから歩いて3分ぐらいで、けやき通りになります。春は、けやきの新緑、つつじが楽しめ、秋にはけや木の紅葉を楽しむことができます。けやき通りは米子で一番美しい並木通りで、米子で一番発展的な商店街が並んでいます。

賃料※1	¥60,000 ~ ¥124,000
共益費	¥35,000
食事サービス費※2	¥42,000
生活支援サービス費※3	¥3,000
合計	¥140,000 ~ ¥204,000

- ※1 共用スペースの維持管理・光熱費等を含みます。
- ※2 消費税込・翌月分先払。1日3食1ヶ月分です。ご希望に応じて、刻み・ミキサー食に対応します。
- ※3 消費税込・当月分当月払。24時間365日スタッフを駐による生活支援1ヶ月の基本料金です。オプションサービスも別途用意しております。
- 介護保険サービスもご利用になれます。
- サービスのご利用状況に応じて、月額の自己負担金額が発生します。
- 別途、敷金を賃料の3ヶ月分お預かりします。

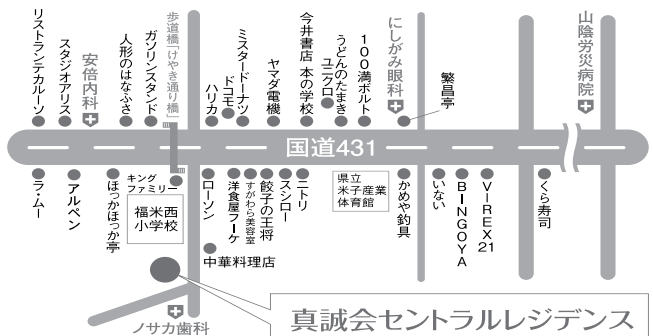
# 真誠会セントラルレジデンス

フィットネスクラブ(健康クラブ)、デイサービス併設 **全 58 部屋**

モデルルーム公開中!



会場: 米子市西福原8丁目 時間: あさ10時~夕方5時



入居のお申込み、ご予約  
モデルルーム見学等

お問い合わせ先

0859-30-3330

医療法人 真誠会  
社会福祉法人

http://www.hospitown.or.jp/

## 在宅医療連携拠点と在宅医療の今後 ―在宅医療維新なるか―

医療法人真誠会 理事長 小田 貢

医療法人・社会福祉法人真誠会は平成 24 年度、米子医療センターとともに在宅医療連携拠点事業所（以下拠点事業）に採択されました。

真誠会は今回の拠点事業に応募するまで既に、在宅医療支援診療所、訪問看護、地域包括ケア、24 時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの活動を開始しておりましたので、この新しい事業は可能だろうと思い応募しました。そして復興枠として採択されました。

採択されてから、厚生労働省から送られてくる 5 つのタスクがあり、計画立案、各種問題の抽出、解決法、連携の確立、人材の育成など、次から次に指令がくるではありませんか。その膨大さに驚きました。いずれにしても今回の事業は在宅医療を推進するために新しい具体的な方策を立てて実践に移すことなのです。

幸い鳥取県西部医師会では、「在宅医療推進委員会」というプロジェクトがあり、早速参加させていただくとともに、会長野坂美仁先生をはじめ在宅推進委員代表の方には「在宅医療連携拠点委員会」に参加していただき、相互支援の形になって二つのプロジェクトが強力に前進することが出来ました。また、拠点事業として鳥取県西部の医療福祉の代表的な方、行政、病院の連携室の皆様、そして鳥取大学医学部脳神経内科教授 中島健二先生、胸部外科 准教授 中村廣繁先生にも委員になっていただき、鳥取県西部地区の 9 市町村の行政担当者の皆様にもネットワークに入っていました。昨年 10 月までに「在宅医療連携拠点事業推進会議」を 3 回開催しました。

一方で、ホームページ：コズミックリンクを立ち上げ、在宅医療に必要な医療福祉の資源、医療福祉機関の機能などがわかりやすいマップを作成し、誰でも何処でも色々な医療福祉機関の場所や機能が分かるようになりました。

去る 10 月 13 日、14 日には鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課課長補佐 前田陽三様、鳥取県医師会 常任理事 吉田真人様、米子医療センター 副院長 山本哲夫先生、そして私は、東京で行なわれた都道府県リーダー研修に参加してきました。啓発活動、地域リーダーの育成が必要になってきますので、その地域リーダーを育てる指導的立場のものとして、今後は地域リーダー研修を受けたものがリーダーとなり、鳥取県下の各地域の在宅医療推進のための活動や人材育成をして行かなければなりません。

その後の拠点事業活動としては、平成 25 年 1 月 20 日に中国ブロック（9 拠点）の発表会が広島で開催されました。最終的には平成 25 年 4 月に全ての報告書をまとめて厚生労働省に提出しました。今後の在宅医療政策に役立てられる方針です。平成 25 年度から全国に連携拠点が配置され、それを中心に医療福祉の多職種、行政、医師会が一体となった新しい形態の在宅医療が進められると思います。

厚生労働省が求めている在宅医療の変革とは分かりやすくとえるとするならば、現在の在宅医療を白い四角な画用紙とすると、その画用紙を平面的に 2 枚、3 枚に広げることではなく、2 枚 3 枚の画用紙を使って三角錐、四角錐、立方体などの立体的、3 次元的な新しい在宅医療の構築なのです。

しかしながら、鳥取県全県下を一気にそのような新しい形態に変革できることは不可能に近いことですので、まず米子市を中心にモデル的な活動を行い、それが一つのモデルとして鳥取県で広がるのも一つの手法だと思います。

今、流行の言葉を使わせていただくならば、平成 25 年度は在宅医療維新の年になるかもしれません。



平成 24 年度 中国ブロック  
在宅医療連携拠点事業活動発表会 ―広島にて

## 在宅医療連携拠点事業の成果と課題

社会福祉士 小山 雅美  
(真誠会医療福祉連携センター センター長)

平成 24 年度厚生労働省の委託事業である在宅医療連携拠点事業を一年間展開し、3月23日(土)に、厚生労働省において全国から選出された 105 拠点の事業所の取り組みの成果発表会がありました。その後、特に効果があったもの、苦労した点を踏まえ、今後、各地域において、医療と介護等が連携した在宅医療を推進するための具体的方策を議論しました。

真誠会は、「コズミック・リンク」の名のもとに、多職種連携の研修会、行政や医師会、関係機関との連携、多職種とのネットワークづくり、災害時の対応など、在宅医療連携拠点事業活動の学びは、とても大きいものでした。



グループディスカッションの様子

この学びは、今後真誠会が推進している地域包括ケアシステム構築に大きく寄与するものであり、地域の皆さまが、住み慣れた地域で暮らし続けていかれるために、関係者と共有しながら地域へ還元できればと思っております。



成果報告の様子

### 真誠会の災害対策 衛星携帯電話設置

平成 24 年度在宅医療連携拠点事業(復興枠)の一環として真誠会は、災害時のスタッフの被災地へ派遣、被災者の真誠会施設への受け入れなどを策定しました。

それと同時に真誠会に 4 台の衛星携帯電話を導入しました。ご存知のように災害時には携帯電話は込み合って緊急の連絡が出来ないのです。導入した 4 台の衛星携帯電話は、米子ホスピタウン、弓浜ホスピタウン、米子セントラルホスピタウンの 3 つ拠点に 1 台ずつと、あと 1 台は理事長が持つことになりました。

これらの衛星携帯電話で、真誠会の中の連絡はもとより行政、医師会とも連携をとって緊急時の被災者の受け入れなどを円滑に出来ると思います。

### 真誠会の感染症予防対策 緊急連絡ネットワーク(救急メール)の充実

今年は、1月から3月までインフルエンザやノロウイルス感染が流行しました。

高齢者が入所、通所されている施設では、感染症に対する抵抗力が弱い入所者、ご利用者の方が多数おられます。そのため、集団感染にならないように気を配りながら、感染に対する心構え、感染対策を図ることが大切です。

真誠会では、電子機器、ネットワークが充実しているので、緊急連絡ネットワーク(救急メール)を使い感染状況を即座に把握し、全セクションへ一斉メールを発信しています。感染対策部門などが中心になって積極的な発信を行い、感染の拡散防止に努めました。

今年は、感染症予防対策の徹底と、救急メールの活発な利用により、二次感染が少なかったように思います。罹患されたご利用者、職員の感染情報は個人名を入れて救急メールの発信を行います。その後も、罹患した方のフォローアップ、健康状態も常に把握し、経過も含め情報共有をメールで知ることができます。

入所者の方々、利用者の方が安心して施設を利用していただくために、普段から感染予防体制を整備し、感染症発生時には迅速で適切な対応を図ることを継続していきたいと思っております。



#### Aさんが利用する 真誠会の施設

感染症情報や大気汚染物質情報なども、一斉メール送信で発信し注意を呼び掛けています。



PM2.5の濃度が基準を超えることが予想されます。外出を控える等予防措置をお勧めします。



わかりました



わかりました



# 東本願寺阿弥陀堂の瓦を使用 和田・複合型サービス事業所：ふる里

ここに、東本願寺の阿弥陀堂（浄土真宗「真宗大谷派」の本山で「真宗本廟」といい、御影堂には宗祖・親鸞聖人の御真影を、阿弥陀堂にはご本尊の阿弥陀如来が安置されています）修復のため使われなくなった 120 年ものの瓦を分けていただき、その平瓦を建築に使用していることです。

国宝級の東本願寺 阿弥陀堂の瓦は、小田理事長が平成 25 年元旦に京都のホテルに宿泊した際に、京都新聞に東本願寺（京都市下京区）の阿弥陀（あみだ）堂が約 120 年ぶりに、瓦がふき替えのために全て下ろされ、約 10 万 8 千枚の瓦の処理に困っているという記事が載っており、その記事を読んで、今度の建築に使うことを思いついたものです。

1 月末に 4t トラック 2 台を仕立てて東本願寺に行き、瓦約 250 枚をいただいてきました。瓦といっても東本願寺の瓦は、一般の瓦に比べ約 4 倍近い大きさと重さがあります。

この東本願寺の瓦はもちろん 1895 年（明治 28 年）の再建以来 120 年の歴史と、東本願寺阿弥陀堂の瓦であったという霊験あらたかなものなので、和田町の新しい施設の話題になると思います。

皆様方にもご期待いただき、複合施設が出来たら見学に来ていただきたいと思います。

訪問看護機能を中心に周辺の在宅医療、在宅介護の充実がより一層図れると思います。

今まで小規模多機能センターと呼ばれていた施設も今後は「複合型サービス事業所 ふる里」に変更になります。

和田町の小規模多機能センターふる里は、平成 24 年 3 月増築を行い、今後は訪問看護機能を備えた複合型施設になります。

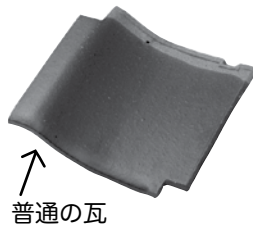
今回新築された部分は数奇屋造りで、特筆すべきことは建物の周囲の腰壁部分に相当すると



複合型サービス事業所 ふる里



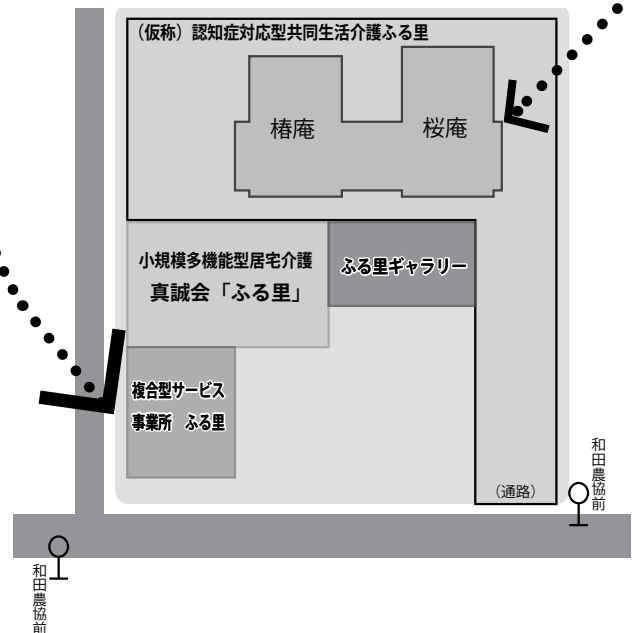
東本願寺



普通の瓦



この瓦一枚の大きさは普通の瓦の約 4 倍近い大きさのものです



## 複合型サービスとは

デイサービスを中心に利用しながら、必要に応じてショートステイやホームヘルプ、そして、『訪問看護』を受けることができる、4 種類の介護サービスのセットメニューのようなものです。

※小規模多機能型居宅介護（ふる里）に、訪問看護を加えたものです。ご自宅で出来る限り長くお過ごし頂くために、介護から看護まで顔なじみのスタッフがお手伝いをさせていただきます。



# グループホーム「椿庵」「桜庵」の開所に向けて



グループホーム「椿庵」、「桜庵」の二つのユニットは、平成25年4月に着工し、9月末には完成予定です。このグループホームにも東本願寺の瓦を一部使う予定です。

建築場所は、現在の小規模多機能センターふるりの裏手の敷地に建ちます。外浜線からは直接見る事が出来ませんが、小規模多機能センターふる里（今後は、複合型サービス事業所ふる里）と一体となり運営され、この地区の高齢者サービスの拠点となります。

真誠会グループでは、富益町のグループホーム青松庵、弓浜地区の6箇所の認知症デイサービスを運営しています。真誠会グループには、『認知症ケア専門士』という資格を持った、認知症ケアのプロフェッショナルが約50名在籍しています。今後もより良いケアに努めて行きたいと思えます。

また、認知症のご利用者が、地域で暮らして頂くためには、地域のご理解と地域で見守る力が欠かせません。地域の方々と協力し合いながら、安心して安全に暮らせる街づくりをテーマにいろいろな取り組みを行ってまいります。

「椿庵」、「桜庵」はその名前の通り、それぞれのユニットのテーマにもなり、このグループホームの庭には多種類の椿の木と、しだれ桜、ソメイヨシノが植えられる予定です。「椿庵」の名称は、建設地を提供して頂いた地主様が愛しておられた『椿』から、命名させて頂きました。地主様の椿はこの椿庵で引き続き、美しい花を咲かせてもらいたと思います。花見の季節には、入居者の方々、近所の皆様を楽しませてくれることでしょう。

尚、「椿庵」、「桜庵」はそれぞれ定員が9名、計18名の入居施設で、今年の5月、6月には入居募集を開始する予定です。



4月18日、地鎮祭が執り行われました

## グループホームとは

「認知症の方が9人を一つの単位とした共同の住まいの中で、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフと利用者が一緒に行い、一日中家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることによって、認知症状の進行を穏やかにすることを目的としています。

認知症の方にとって、少人数の中で「なじみの関係」をつくり上げることによって、生活上のつまづきや行動障害を軽減し、心身の状態を穏やかに保つことができるようになると思えます。また、普段の生活の中では、過去に体験しておられたことがある役割を担って頂き、ご利用者の潜在的な力、なくしかけていた能力を再び引き出したいと、考えております。

# 辻田耳鼻咽喉科

## 弓ヶ浜・白砂青松そだて隊



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗



白砂青松ボランティア  
辻田隊長、自らお手本を！

弓ヶ浜・白砂青松そだて隊は昨年から活動を始めたプロジェクトですが、一昨年の大雪で被害を受けた弓ヶ浜の松を蘇らせようというものです。これには地元企業・自治会などたくさんのチームが参加していますが、ホスピタウンもその一員となり昨年から活動を始めました。自分たちの手で弓ヶ浜をかつてのような美しい松並木にしようとホスピタウン全体に呼び掛けられたくさんの方に参加して頂くことになりました。昨年は6月に総勢



子どもたちも、真剣に松の植え方を聞いて、がんばりました (^o^)

99名もの人数で草刈り・清掃をして、そして今年3月には待望の松の苗木の植樹を行いました。今回はチビッコ達も含めて30数名で1本ずつ丁寧に植樹をしています。植えた苗木1本々々に自分の名前を書いたプレートを添えています。この苗木が大きくなるには30年ほど掛かります。はるか先のことで、ボクはもう生きていないでしょうが、立派になった松並木を今から楽しみにしています。松並木も自然に育ったのではなく、人が手間をかけないと立派な松にはならないとこのプロジェクトに関わって初めて知りました。そしてさらにこの道を車で通る度に他の地区はどうなってるのかとても気になるようになりました。



植樹も終わり、全員で記念写真を撮りました。今は、小さな苗ですが、大きく成長しますように、願いを込めて☆

今回の植樹はわずか90本です。まだあと300本程の植樹が必要ですし、下草刈りの作業も続けないといけません。30年後の立派に蘇った松並木を想像しながら、このプロジェクトはまだ続きます。

# いえはら歯科

## 2013 春



いえはら歯科  
院長 家原 猛

事は突然にやって来た。そして、生活は大きく変わる事になった。昨年の暮れ前から、里の父の希望に応える形で米子での合宿生活が始まった。それまで父と母は大きな病を患うこともなく、仲良くケンカしながら寄り添って暮らしていた。ご近所の方々に大分支えてもらっていたようでもある。1ヶ月を越えて父と暮らすのは本当に久しぶりである。でも、不思議と楽しい。父との晩酌は最高である。刺身と鍋、親爺は焼酎の湯割り、私は日本酒。日本海の魚が好物で、野菜好き。私と口が合う。用意するもの何でもうまい、うまいと言ってきれいに食べてくれる。風呂も見守りながら、声掛けすれば髭も自分で剃るし、タオルを使って上手に背中も洗う。多少の頓珍漢はしょうがない。人生いろいろの事があるが、ここに来て父と何かいい時間が過ごせている気がする。

小さい頃から父の背中を見、父はいろいろの事を教えてくれた。1番感謝しているのは、私を上手にやる気にさせてくれたこと。それは今も変わらない。

来週の日曜日には、子供の頃重箱に母の手料理を詰め込んでみんなでお花見した、里の尾関山公園に桜と一緒に見に行こう。なあ、じいちゃん。



## 聖路加国際病院理事長 医療法人真誠会名誉理事長 日野原重明先生の動向



聖路加国際病院理事長で医療法人真誠会名誉理事長でもある日野原重明先生の最近の動向をお伝えします。

日野原先生は、2月下旬、風邪をひかれて何日も激しい咳が続き、背中に今まで味わったことのないような激痛を感じられました。

当初、先生は、咳をしすぎたための肉離れと思っておられましたが、レントゲンとMRIを撮影すると、激しく咳き込んだ衝撃による背骨の第11胸椎体の圧迫骨折だとわかりました。

翌日には「経皮的椎体形成術」という、椎体の中に骨セメントという薬剤を注入し固定する痛みを緩和する手術を行い、回復されました。

初めて車椅子生活を体験された先生は、術後4日目には、飛行機で日帰りの福岡の講演へお出かけになりました。移動は車椅子でしたが、立ったままで1時間講演されました。5日目には車椅子を卒業され、普通の生活に戻られました。当時の先生の原稿には、今回のご病気を「七転八倒の苦しみ」「苦悶」などと記されていました。詳しくは2013年5月号「いきいき」で紹介されています。

その後も全国各地で開催される「新老人の会」各支部のフォーラムをはじめ、学会や市民講座、大学などでお元気に講演会活動を続けられています。

また、先生は精力的に執筆活動も続けられ、次々と新刊書が刊行されています。

『「与」命一団塊世代よ、あなたの晩年は40年間ある』（小学館・1300円＋税）、『101歳の金言』（ダイヤモンド社・1300円＋税）、『長寿の道しるべ』（中央公論新社・1470円）、『日野原重明の「わくわくフェイェスブックのすすめ』』（小学館・700円＋税）が先生の新刊書です。

先生の長年にわたる活動に対して、オーストリアのアルベルト・シュヴァイツァー協会からアルベルト・シュヴァイツァー章を授与されることになりました。この協会は、アフリカのガボン共和国のシュヴァイツァー病院を支援するために1984年に設立され、現在は国際的な人道支援活動を展開する非政府組織として世界19カ国に支部を持ち、500名を超える実働会員がいます。毎年、人道援助活動、国際貢献、教育分野などに顕著な貢献のあった人が顕彰されています。

日野原先生は、101歳になられても全国各地で講演をされています。

4月だけでも以下のように超多忙なスケジュールです。

- |   |   |
|---|---|
| ● 4月7日(日) 12:45～<br>山梨県南アルプス市・桃源文化会館<br>「新老人の会」山梨支部フォーラム<br>演題「私たちの運 命は自分でデザインしよう」    | ● 4月14日(日) 13:00～<br>栃木県・足利赤十字病院 講堂<br>市民公開講座 演題「各年代に於ける生き甲斐ある<br>人生の選択ー 私の101歳の経験から」 |
| ● 4月10日(水) 13:00～15:30<br>兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール<br>健康生きがい学会<br>演題「こころ豊か人生をデザインする」 | ● 4月18日(木) 13:30～<br>佐賀市文化会館大ホール<br>「新老人の会」佐賀支部フォーラム<br>演題「私たちの運 命は自分でデザインしよう」        |
| ● 4月11日(木) 16:30～17:30<br>名古屋マリオネットホテル<br>玉越創業祭<br>演題「ジョン万次郎が明治維新に果たした役割に学ぶ」          | ● 4月21日(日) 13:30～16:30<br>新潟テルサ大ホール<br>「新老人の会」新潟支部フォーラム                               |
|   | ● 4月29日(月・祝)～5月1日(水)<br>長崎県・五島列島への旅<br>「日野原先生・高木慶子シスターと行くスピリチュアルな旅」                   |

## 東日本大震災から2年祈り、明日への希望 東北の小学校へ本の寄贈

平成25年3月11日で東日本大震災から2年が経ちました。

大津波と原発事故による未曾有の複合災害となった東日本大震災。死者と行方不明者、震災関連死と認められた人は合わせて2万853人にのぼり、多くの被害、悲しみがあつたことを忘れることができません。

3月11日、真誠会でも各施設を中継で結び、職員全員、利用者の方も患者さんも一緒に東日本大震災の犠牲者の方へ黙祷を捧げました。

真誠会では昨年、寄附金や義捐金付きTシャツを売った売上金 約100万円を東北へ送りました。

また、昨年5月に米子で開催された『日野原重明先生百歳記念講演会』では、東北の「新老人の会」福島支部の皆様と市民の方々と会場を二元中継で結び励ましのエールを送ることができました。

日野原先生は震災直後より被災地を何度も訪れ、小学校を訪問され子どもたちを励まして来られました。今年も日野原先生は被災地の小学校で、「いのちの授業」をされる予定になっています。

真誠会では日野原先生の訪問に賛同し、日野原先生の著書を被災地の小学校へ130冊贈ることにし、その著書の贈呈を日野原先生に託すことになりました。

真誠会は今後も継続的に、被災地に対して支援を続けていきたいと思ひます。



## 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所事務室 完成式

4月11日(木)に、以前より工事中だった定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所事務室の完成式を行いました。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所事務室は改修して、とても広いスペースになり、今後包括ケアサービスの打ち合わせにも最適の場所が確保されました。

今後新しいスペースを有効に活用し、業務の効率UPに繋げていきたいと思えます。



### 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスとは

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスでは、定期的にホームヘルパーが米子市内を巡回しています。また、ご自宅でお過ごし中に、何か緊急のことが起これば駆けつけます。入浴、排せつ、食事等の介護や日常生活上の緊急時の対応などを行うサービスが、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスです。

オペレーターが24時間対応し、緊急の際の通報を受け、必要に応じて介護・看護スタッフが訪問致します。また、緊急時以外に24時間複数回の定期訪問を行い隙間の介護や随時対応を行います。

このサービスによって、施設での介護を必要とされていた方がご自宅で同じように介護サービスを受けることが可能になりました。

料金は要介護度によって異なりますが、一ヶ月単位の定額料金になります。

真誠会グループがご自宅での生活を応援します。是非、ご活用下さい。

### 和田でワタ作りプロジェクト

## 「日本海新聞ふるさと大賞」地域貢献賞を受賞



「日本海新聞ふるさと大賞」  
地域貢献賞の賞状と盾とともに

平成25年2月12日に、地域の活性化に貢献した個人・団体を顕彰する「日本海新聞ふるさと大賞2012」(日本海新聞ふるさと創り事業団主催)の表彰式が米子市役所であり、地域貢献賞に「和田でワタ作り、ワタで和田作りプロジェクト」が選ばれ、矢倉玲二代表が、野坂市長からのお祝いの言葉とともに、表彰状と記念品を受け取りました。

真誠会では、平成25年夏に、和田町の認知症高齢者グループホーム(2ユニット)の開設を予定しています。定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスなど、専門的な医療・福祉サービスを充実させるとともに、住民主体の活発な地域作り活動に対しても、支援しています。

### ♪♪♪ 「高齢社会をよくする会米子」による合唱ボランティア開催 ♪♪♪

平成25年2月23日(土)、「高齢社会をよくする会米子」の皆さん26名が、富益しあわせデイサービスホールで合唱ボランティアに来てくださいました。

富益しあわせデイサービス、青松庵、ふる里から利用者の方々50人が集まり、終始、笑顔と歌声が溢れるとても楽しい会となりました。

早原さんの挨拶の後、ボランティアの皆さんは利用者の方の間に入り、目線を合わせてふれ合いながら「赤とんぼ」や「ふるさと」などの童謡を一緒に歌われました。ボランティアの皆さんが準備くださったカラーの歌詞カードを使ったり、よく知られている曲の1番を2回づつ歌ったり、利用者全員が楽しめるような思いやりのある配慮をしてくださいました。

合唱だけでなくピアノ演奏も聴かせていただきながら、休憩タイムを入れたり、踊りがあつたりと、最後まで楽しめるようなプログラムで、予定時間の1時間があつという間に過ぎていきました。

会の終わりには、参加者全員の気持ちが一つになり、会場が暖かい雰囲気になりました。利用者の皆さんからも、にこやかな表情で「また来てくださいね」と大きな拍手され、笑顔とともに会が終了しました。





# 平成 24 年度 第 4 回 ゆうとぴあ家族会

年 4 回開催している「介護老人保健施設ゆうとぴあ家族会」を 3 月 9 日に開催しました。

毎回参加者に役立てて頂ける内容にして工夫を凝らしています。今回は、40 名を超える参加がありました。

中下施設長より「性機能障害、下部尿路症状は、心血管疾患の前兆か」と題して講演があり、その後、口腔ケアの大切さについて、参加者の皆さんと一緒に学習しました。口を綺麗にすると認知症や転倒の予防になる事や、いつまでも若々しく生活する為にも口腔リハビリが大切であることを学びました。

続いて、便利な福祉用具を使った介助を参加者と一緒に、負担の少ない介助方法を体験していただきました。最後にお茶とお菓子を頂きながらの情報交換会で日頃のご家族の思いやご意見を聞かせていただき有意義な家族会となりました。



福祉用具を使った  
介護体験



口腔体操を  
参加者全員で  
行いました!!

## ■ 老化による口腔内の変化

- ・歯の変化(磨耗、咬耗)
- ・歯周組織の変化(歯周病)
- ・顎の骨の変化
- ・口腔粘膜の変化(口臭の原因、味覚障害)
- ・唾液腺の変化(萎縮による分泌量の低下)
- ・口腔周筋の変化(動作が少なくなる事により筋肉が減少する)

## ■ かめばかむほど若返り、 老化防止になる!

- ・脳への血流の促進
- ・集中力が高まる
- ・認知症の予防に効果がある!



## ■ ゆうとぴあでの取り組み

歯科医師、歯科衛生士による指導を受けながら、利用者様一人一人に合った効果的な口腔ケアの方法を実施しています。

平成24年度  
第4回

## 弓浜ゆうとぴあ家族会

介護老人保健施設 弓浜ゆうとぴあでは、平成 25 年 3 月 9 日(土)に平成 24 年度 第 4 回目の家族会を開催しました。

今回の家族会では、弓浜ゆうとぴあを退所され、自宅へ帰られた利用者様の「自宅での介護生活での実体験」をお話して頂きました。お話を聞かれたご家族様からは「感動した」、「これからの自分の世帯の将来設計に役立った」等のお声を頂きました。

また、弓浜健康クラブとのコラボレーションにより、介護者自身の健康体力作りの取り組みとして、トレーニングマシン運動、座ってできるエアロピクス等の運動教室を開催しました。介護から離れて自分の健康についても意識を高めて頂ける機会となったのではないかと考えています。

今までの家族会は施設からご家族様への一方向の情報発信の場でした。今後は介護保険の変わりゆく動向を伝えるだけでなく、利用して頂いている皆様の持つ不安を軽減でき、自身の介護予防意識を高める場として提案していけるよう努力してまいります。







## 待ちに待った師弟桜ついに咲く!!

医療法人真誠会 理事長  
小田 貢

昨年(平成 24 年) 5 月 21 日、真誠会名誉理事長 日野原重明先生と私は、日野原先生の 100 歳を記念して真誠会セントラルクリニックの庭に枝垂れ桜を 2 本植えました。

1 本は日野原先生に植えていただき日野原桜とし、もう一本は私が植え小田桜とし、これを師弟桜として記念碑も造りました。

それから 1 年間この桜が咲くのを、毎日首を長くして待っていました。夏の暑いときには私も水をやり、ときどき肥料もまきました。

昨年の夏は暑かったので枯れるのではないかと、とても心配しました。回診のときはいつも 2 階の窓から下の師弟桜の状態を心配しながら観察していました。

今年は 3 月 24 日頃に、師弟桜が開花しました。

そもそも枝垂れ桜はソメイヨシノよりも少し遅く咲くのですが、今年はソメイヨシノとほぼ同時期に咲きました。真誠会には院長室の前に 2 本大きなソメイヨシノが植えてありますが、それらは私の還暦を記念して植えたものです。その後、2 年前の豪雪のときには大きな枝が折れてかなり痛んだのですが、これも一生懸命に水をやり、肥料をやりました。

お陰でこの 2 本の桜も 9 年間で非常に大きくなりましたし、また今年は今までで一番多くの蕾をつけていたので、満開になった時は、とても見事でした。

ということで今年は真誠会の右には 2 本のソメイヨシノが、左には師弟桜も満開に咲き、病院を受診される方、入院中の方、施設に入所していらっしゃる方、お見舞いの皆さま、近所の皆さま、そしてスタッフもその美しさを満喫していただけたと思います。

私はこの桜がこれから 20 年、30 年、そしてそれから長く咲き続け皆さま方の心に幸せをよびおこすことを、そして日野原先生がこの枝垂れ桜のようにこれからも長らく人生の花を咲かせ続けられることを祈っています。

